道徳経済合一ソリューションシリーズ ―第1回―

埼玉りそな銀行 RESONA

地域の想いを汲む寄贈型CSR私募債 持続可能な埼玉へ　共創社会を構築

「埼玉りそな寄贈型CSR私募債（地域活性化コース）」は、私募債の発行企業であるお客さまからいただく手数料の一部を、地元団体に寄付することで、地域貢献の新たな形を体現している。熊谷支店では約70万人の人出を誇る「熊谷うちわ祭」を寄付先に選定。伝統を未来に継承するため、地元企業と共創社会の構築を目指す。今回は熊谷の老舗企業「オキナヤ」の藤間太郎社長と埼玉りそな銀行熊谷支店の前原郷支店長が対談。お祭への熱き思いとともに、「道徳経済合一」の精神が紡ぐ地域活性化への期待を語り合った。

（企画構成・埼玉新聞社クロスメディア局）

「熊谷うちわ祭」を未来に継承 金融機関×地元企業の新たな地域貢献

埼玉りそな銀行 熊谷支店長
前原 郷 氏

×

オキナヤ 代表取締役社長
藤間 太郎 氏

伝統に関心を持つきっかけを

藤間　当社は明治元（1868）年に熊谷の地で創業、今年で158年目の総合エンジニアリング企業です。工場の生産設備や製造部品を取り扱う機電事業部、土木や建築・上下水道工事などを手掛ける建設事業部が主力事業です。

創業当時は米穀商で、発明家だった3代目が精米機や精麦機を自作していたことが、会社の源流です。その3代目は昭和20（1945）年8月の熊谷空襲で亡くなり、社屋も全焼。全てを失った中でご支援いただいたのが、熊谷市内の星川地域で暮らす方々でした。皆さまの支えがなかったら、今の会社も私も存在していなかったかもしれません。その経験から、地域への恩返しを何よりも重要視しています。

前原　地域貢献を形にした「埼玉りそな寄贈型CSR私募債（地域活性化コース）」は、発行企業であるお客さまからいただく手数料の一部を地域課題解決に取り組む団体に寄付する商品です。熊谷支店では毎年7月20日～22日に開催される「熊谷うちわ祭」を支援するため、発行額の0・1％を熊谷うちわ祭協賛会に寄付しています。これまでの地域の皆さまとの交流を通じて、伝統を大切にする情熱を感じた一方で、物価高や人件費増など厳しい運営状況であることを知りました。

金融の仕組みを使い、地域発展のために何か還元できないか。「道徳銀行」を掲げる当社として、渋沢栄一翁の教えである「道徳経済合一」の精神に立ち返り、お祭の永続的な繁栄に向けた側面支援を決めました。

藤間　寄付先に熊谷うちわ祭を選定いただいたことは、地元企業として大変うれしい思いです。先代はかつて大総代を務め、私も町内の総代としてお祭に携わっていますが、コロナの影響で開催が途切れた時期がありました。復活に向けて動く中で、地域イベントに対する考え方の変化を感じました。寄付金をいただく難しさや運営費のコスト増など、厳しい財政状況下で開催を続けていかざるを得ませんでした。

その中で埼玉りそな銀行様から寄贈型CSR私募債のご提案がありました。資金調達はもちろん、間接的に熊谷うちわ祭に貢献できる仕組みが、非常にありがたいと思いました。商品の利用を通じて、今までお祭に直接関わる機会がなかった地域外の皆さまにも、関心を持っていただく良いきっかけになるのではと期待しています。

前原　今日まで銀行経営ができているのは、地域の方々の支えがあるおかげです。融資や預金など本来の価値提供に加え、営業店が主体となって、その一部を地域に還元する仕組みを形にしていく点は、これまであまり例のなかった取り組みです。道徳と経済の両立こそ「道徳銀行」の核心であり、地域発展に少しでも寄り添う姿勢は、将来にきっとつながるはずです。

交流広げ次世代に文化つなぐ

藤間　夏が近づくと熊谷うちわ祭への高揚感が高まり、血が騒ぎ始めるのがお祭に携わる人間の性（さが）です。幼少期からお囃子会に所属していましたが、改めて振り返ると、小学4年生から高校3年生が一緒に活動する機会は貴重だったと感じています。同じ目標に向かって、時には厳しい指導も乗り越えながら、学校では学べない「地域の学び舎」としての機能も果たしています。

子どもたちの未来をつくることは、熊谷市の未来をつくることと同義です。お祭を通じた人材育成は、今の時代に特に重要だと考えます。

前原　熊谷支店に着任以来、熊谷うちわ祭に毎年参加しています。暑い中で息を切らしながらも山車をひく経験は唯一無二です。支店全員で浴衣を着てお祭を盛り上げていて、女性従業員の中には自らの浴衣を着て参加する従業員もいます。仕事とは違う充実感に満ちた表情を見ると、支店内だけでなく、地域との一体感を得られる大切な時間だと感じます。

熊谷うちわ祭は地域の皆さまにとって心の拠り所です。銀行業務を通じて、少しでも協力することができれば、従業員にとってこれほどうれしいことはありません。地域外の方々にも共感いただき、交流の輪を広げていきたいです。

藤間　コロナ禍を経て、お祭や花火大会など地域イベントのあり方が問われています。廃止にするのは簡単です。一方で継続するハードルはより高くなっています。少子高齢化社会に伴い、お祭の担い手不足は深刻です。このままだと、数十年後に熊谷うちわ祭も存続の危機を迎えるかもしれません。

お祭を維持、発展していくためには、地域外の方々に興味を持っていただき、外部の力を借りていくことは不可欠です。この地域で暮らす住民や商売を営む私たちにとっては、熊谷うちわ祭は生きがいです。埼玉りそな銀行様が地域のハブ機能を果たし、間接的に金銭面でお祭を支えていただける仕組みは、必ず将来の役に立つと信じています。

前原　どの地域にも夏の風物詩と呼ばれるイベントがあります。その時期が近づくと、故郷を思う気持ちが自然と湧き上がるものです。熊谷うちわ祭について、聞いたことがあっても、訪れる機会があるとは限りません。熊谷うちわ祭を応援してくださいという単純な文脈ではなく、商品本来の価値に加え、地元貢献や地域経済の成長戦略につながるという思いに共感いただけるとうれしいです。

こまりごと解決で誇れる地域へ

藤間　熊谷の持続可能な未来に向けて、創業の地である星川地域を中心に、担い手不足が深刻な各エリアを元気にするお手伝いをしていきたいです。若手社員自らまちづくりに携わり、交流する姿を見ると頼もしい気持ちです。自分たちから積極的に関わりを持ち、誇れる地域へと昇華させていく。人づくりとまちづくりの両輪で、地域に新たな価値を創出していきます。

熊谷とともに150年以上歩んできた当社だからこそ、地域外の皆さまとの接点を持ち、新たな視点を取り入れながら、地域社会を変える第一歩を踏み出していきたいです。感謝を忘れず、社業そして地域発展にこれからもまい進していきます。

前原　地域経済の発展に当社の資金を活用いただくことで、各企業に携わる皆さまの未来をプラスにしたい。そのお手伝いをするのが使命です。藤間社長のお言葉を聞いて、輝かしい熊谷の未来のために、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担いたいと身の引き締まる思いです。

当社が地域にとって、お客さまにとって、どのような存在であるべきなのか。金融機関が新たな輪をつくり、商売や雇用が創出され、地域社会が発展する。その一つの手段が「埼玉りそな寄贈型CSR私募債（地域活性化コース）」です。

お客さまのこまりごと解決に向けて、失敗を恐れず挑戦を続ける姿が「道徳経済合一」の精神そのものかもしれません。これからも埼玉の皆さまと手を取り合いながら、全従業員一丸となって、日本一暮らしやすい埼玉の実現を目指していきます。

地域の伝統を守る使命と「熊谷うちわ祭」の未来を語り合った

熊谷うちわ祭に参加した熊谷支店の従業員ら（モリタフォト提供）

金融＋で、未来をプラスに。RESONA GROUP

資産形成や事業活動におけるお取引を通じて、地域社会へ貢献できます

定期預金を通じて埼玉のこどもたちの未来を一緒に創りませんか？

寄付型定期預金
道徳銀行預金
取扱期間 2026年4月1日（水）▶2026年9月30日（水）

資金調達を通じて埼玉県の発展に貢献

寄付型融資
道徳銀行ファンド
取扱期間 2026年4月1日（水）▶2026年9月30日（水）

銀行が寄付を行う道徳銀行預金・道徳銀行ファンド。お客さまのご負担なく社会貢献に参加できます。

渋沢栄一翁筆の扁額「道徳銀行」
当社の源流の一つである黒須銀行の創立15周年を祝して、渋沢栄一翁から贈られた書。
黒須銀行は、庶民の道徳の結晶である貯蓄を資本としていること、学校には有利な利子をつけ、利益の中から寄付を行っていること等により、世間から「道徳銀行」と呼ばれました。

詳しくは右記二次元コードまたはお近くの店頭へお問合せください。

埼玉りそな銀行 RESONA

2026年5月1日現在